

消化器心身症状の背景因子

(分担研究：小児心身症に関する研究)

宮本信也

要約：中学生534人を対象として、反復性腹痛・過敏性腸症候群様消化器症状と心配事、および、life eventとの関連性を検討した。反復性腹痛の頻度は学年による特徴はみられなかったが、腹痛以外の過敏性腸症候群様症状は3年生に多い傾向が認められた。しかし、1学期と2学期で、腹痛・過敏性腸症候群様症状とも、どの学年においても頻度に違いがみられなかった。このことより、受験のストレスは、少なくとも12月までは、中学生の消化器心身症状にあまり影響を与えない可能性が推測された。反復性腹痛で頻回欠席・受診をする小児では、自分の健康状態に対する心配が大きく、腹痛自体よりも、そうした心気の状態が日常生活に影響を与えている可能性が考えられた。経験したlife event数の多少と消化器心身症状の頻度の間には一定の関連性は認められなかった。

見出し語：小児、反復性腹痛、過敏性腸症候群、背景因子、life event

【はじめに】腹痛や便通異常などを呈する過敏性腸症候群は、不安・緊張感と関連性があることがいわれている。実際、中学生・高校生では、受験を控えた3年生において頻度が増加することもいわれている。しかしながら、小児において、同一対象を経時的に調査し、消化器心身症状の変化を検討した報告はみられていない。今回、中学生を対象として、1学期と受験が近づいた頃の2度の調査を行い、中学生が日常的に経験するストレス状況の中で、心身症状がどのように変化するかを検討することとした。さらに、単に進路問題だけでなく、小児の生活に生じたいろいろのできごと

つまり、life eventと消化器心身症状の関連性の有無についても検討を行うこととした。

【対象と方法】対象は、主旨を説明し協力が得られた中学校の1～3年の生徒534人である。

調査は、独自に作成した質問紙を用い、学校の教室で集団記入方式で行った。記入は、担任教師の教示で実施してもらった。消化器心身症状としては、腹痛の他は、代表的消化器心身症である過敏性腸症候群の症状をとりあげた。life eventに関する質問紙は、Coddington(1972)のものを宮本(1989)が改変・数量化したものを用いた。調査は、7月(一部9月)と1～2月の2回行った。

life eventと消化器症状は、4～6月（以下、1学期）、7～12月（以下、2学期）の間に経験したものを記入してもらった。

【結果と考察】

1. 対象の概要

対象の概要を表1と2に示す。1回目（1学期分の調査）と2回目（2学期分の調査）で、欠席生徒の関係で回収人数に違いが認められているが、90%以上は同一生徒であり、この2回の結果をそのまま検討することとした。なお、学年・男女による人数の違いは認めていない。

2. 消化器症状の経時的変化

表3～7に、頻回腹痛、腹痛以外の過敏性腸症候群様症状の頻度の経時的変化を示す。頻回腹痛は、週1回以上の腹痛が3か月間以上あったと記入したものとした。頻回腹痛の頻度は、1年生の1学期が一番多く、2年生1学期が一番少ないという結果であった。いずれにしても、腹痛の頻度に特定の学年による傾向はみられなかった。

一方、過敏性腸症候群様症状では、便意を除けば、いずれも3年生においてその頻度が高い傾向が認められた。しかしながら、1学期と2学期の結果をみると、どの症状も、どの学年においても頻度に違いはみられなかった。今回、腹痛の頻度は、「毎日ある」から「全くない」まで8段階に分けて記入してもらった。この頻度の段階が2段階以上多くなったものを悪化、少なくなったものを改善、1段階の変化のものには「やや」という表現をつけて、1学期と2学期の腹痛の経過をみたのが表8である。これでも、3年生で特に悪化の傾向が強いということもなく、1学期と2学期の間では、中学生の消化器心身症状の状況は全体としては、大きく変化しないことが考えられた。2学期の状況とはいえ、12月までの期間が入

っており、私立の入試時期を考えると、3年生では受験が現実的になっている時期が含まれているにも関わらず、このように消化器心身症状に変化が認められなかったことは、少なくとも12月までの時点では、受験によるストレス状況は消化器症状を変化させるほどの影響力を持たない、換言すると、比較的対応可能な（再適応可能な）ストレス状況ということができると思われた。つまり、12月までは、受験の問題は、中学生にとっては、消化器心身症状を指標とする限りにおいては、深刻な精神的ストレスとはなっていないことがうかがわれた。

参考までに、表9・10に、腹痛により頻回に欠席、あるいは、医療機関受診をしていたものの頻度をあげておいた。ここでいう「頻回」とは、「よくある」と「ときどきある」を合計したものである。ここでも、必ずしも3年生に高いということはないことがわかる。

3. 腹痛と心配事

腹痛と心配事の関係を見たのが、表11～13である。学年が進むにつれて、また、2学期の方が、受験を心配する生徒が増加しているのが分かる。しかしながら、受験の心配事と頻回腹痛の有無との間には一定の傾向は認められなかった。

頻回腹痛の有無と心配事の内容をみると、学年によって多彩であった。頻回腹痛群で多く認められたものは、1年生では勉強・部活の問題、2年生では勉強・部活・友人の問題、3年生では勉強の問題であった。3年生では、頻回腹痛群で受験の心配事の頻度は多いが、腹痛なし群でも同程度に受験の心配事があることから、ここでもやはり受験の心配事は、確かに3年生では心配事の頻度としては多いが、腹痛に影響を与えるほどではないことが示されたと思われる。

表14・15は、頻回腹痛のために、欠席や医療機関受診が頻回な生徒の心配事をみたものである。頻回欠席群・受診群とも、そのときどきにより、勉強の問題から部活・友人・教師との問題など、いろいろな心配事があがっている。しかし、どちらの群でも、1学期・2学期通して共通している心配事の傾向は、頻度は少ないものの、自分の健康状態に対する心配事であった。しかも、この項目は、消化器症状以外で身体で心配なことがあるという設問内容のため、腹痛があるから健康が心配、ということではない。このことは、自分の身体について、常にいろいろ気にしている場合、腹痛が続くと欠席や医療機関受診につながりやすいことを示していることも考えられた。

欠席や受診を頻回にするということは、日常生活がそのために多少支障をきたしていることを考えさせ、生じているストレス状況から再適応しにくい状態にあるとも考えられる。つまり、頻回欠席・受診群の方で多く認められた心配事は、頻度は少なくとも、あった場合、再適応が困難なストレス状況を生じる可能性のあるストレスであることが考えられた。

4. life eventと腹痛

life eventと腹痛の関係をみたのが表16～17である。life eventの平均値と標準偏差の値から、平均+1標準偏差のlife event数が3～3.3個であったため、life event数4個以上をlife eventの多い群と操作的に定めて検討を行った。

結果、1学期、2学期とも、life event数の多少と腹痛の頻度の間には関連性が認められなかった。一方、頻回腹痛群におけるlife event内容をみると、1学期調査分においてのみ、表18の3種類のlife eventが、頻回腹痛群で有意に多いという結果であった。この3つのうち、「仲のよい友

人がいなくなった」と「部活を新しく始めた」の2つはストレスサーとして小さくないことが想像できるが、「父親が家庭にいる時間が多くなった」というlife eventが頻回腹痛とどのような関係にあるのかは、今回の結果からは推定できなかった。ただし、これら3つのlife eventは、いずれも、2学期調査分ではその有意性がなくなっており、単にそのlife eventないようだけではなく、そのときの他の状況が関係しているものとも思われた。

【まとめ】

- ①中学生534人を対象に、消化器心身症状の背景因子の検討を行った。
- ②学習・受験に関するストレスサーは、中学生では高頻度に認められるが、これらのストレスサーが消化器心身症状に与える影響力は小さく、生じたストレス状態は、比較的再適応可能な場合が少なくないと考えられた。
- ③友人・教師・部活・健康状態に関するストレスサーは、頻度としては5～10%前後であるが、それによるストレス状態は、再適応に問題が生じる可能性が少なくなく、頻回の欠席・医療機関受診につながることもあると思われた。
- ④life eventは、それを経験した状況と関連して消化器症状に影響を与えるものがある可能性が示された。
- ⑤消化器心身症状を指標とする場合、特に、自分の健康状態に対する心気的な態度に注意することが、消化器心身症予防のために重要と思われた。

表1 学年と性別（1学期調査分）

	男子	女子	計
1年	96	83	179
2年	88	84	172
3年	102	81	183
計	286	248	534

表2 学年と性別（2学期調査分）

	男子	女子	計
1年	81	74	155
2年	81	83	164
3年	95	81	176
計	257	238	495

表3 頻回の腹痛の頻度

	1学期	2学期
1年	44.7	34.2
2年	25.6	32.9
3年	32.2	36.9
計	34.3	34.7

※週1回以上

表4 排便による腹痛軽減

	1学期	2学期
1年	12.8	15.5
2年	11.0	10.4
3年	15.8	15.3
計	13.3	13.7

※「よくある」者の頻度

表5 腹痛を伴う頻回の便意

	1学期	2学期
1年	6.7	6.5
2年	9.3	8.5
3年	5.5	9.1
計	7.1	8.1

※「よくある」者の頻度

表6 残便感

	1学期	2学期
1年	6.7	9.0
2年	1.7	6.1
3年	9.3	10.8
計	6.0	8.7

※「よくある」者の頻度

表7 腹部膨満感

	1学期	2学期
1年	5.0	5.8
2年	4.1	7.9
3年	7.1	11.4
計	5.4	8.5

※「よくある」者の頻度

表8 腹痛の継続的変化状況

	悪化	やや悪化	不変	やや改善	改善
1年	18.3	13.7	17.0	22.2	28.8
2年	33.8	18.9	16.2	16.2	14.9
3年	21.6	15.8	24.6	14.6	23.4
計	22.6	15.6	20.1	17.8	23.9

表9 腹痛による頻回欠席

	1学期	2学期
1年	16.8	13.5
2年	25.6	18.3
3年	12.6	19.9
計	18.2	17.4

※「あり」の頻度

表10 腹痛による頻回受診

	1学期	2学期
1年	10.6	15.5
2年	19.2	14.6
3年	12.6	16.5
計	14.0	15.6

※「あり」の頻度

表11 頻回腹痛の有無と心配事（1年生）

		人数	受験	勉強	部活	友人	教師	健康	家族
1学期	頻回腹痛あり	80	6.3	42.5	10.0	7.5	2.5	2.5	5.0
	なし	44	15.9	27.3	6.8	4.5	4.5	0.0	2.3
2学期	頻回腹痛あり	53	11.3	39.6	20.8	5.7	0.0	1.9	0.0
	なし	43	18.6	30.2	2.3	4.7	0.0	0.0	0.0

表 1 2 頻回腹痛の有無と心配事 (2年生)

		人 数	受験	勉強	部活	友人	教師	健康	家族
1学期	頻回腹痛あり	44	6.8	36.4	13.6	2.3	6.8	2.3	0.0
	なし	54	3.7	29.6	1.9	3.7	3.7	1.9	1.9
2学期	頻回腹痛あり	54	24.1	29.6	11.1	14.8	7.4	1.9	1.9
	なし	45	24.4	13.3	13.3	8.9	4.4	0.0	0.0

表 1 3 頻回腹痛の有無と心配事 (3年生)

		人 数	受験	勉強	部活	友人	教師	健康	家族
1学期	頻回腹痛あり	59	50.8	25.4	1.7	3.4	0.0	3.4	0.0
	なし	49	40.8	16.3	0.0	2.0	0.0	2.0	0.0
2学期	頻回腹痛あり	65	66.2	10.8	0.0	1.5	4.6	1.5	1.5
	なし	47	44.7	4.3	0.0	2.1	0.0	2.1	2.1

表 1 4 頻回腹痛例における頻回欠席の有無と心配事

全体	人 数	受験	勉強	部活	友人	教師	健康	家族
1学期								
頻回欠席あり	31	9.7	38.7	0.0	3.2	6.5	9.7	3.2
なし	152	23.0	34.9	9.9	5.3	2.0	1.3	2.0
2学期								
頻回欠席あり	30	36.7	20.0	13.3	10.0	3.3	6.7	0.0
なし	142	35.9	26.8	9.2	6.3	4.2	0.7	1.4

表15 頻回腹痛例における頻回受診の有無と心配事

全体	人数	受験	勉強	部活	友人	教師	健康	家族
1学期								
頻回受診あり	25	16.0	56.0	0.0	0.0	12.0	4.0	0.0
なし	158	21.5	32.3	9.5	5.7	1.3	2.5	2.5
2学期								
頻回受診あり	26	34.6	34.6	11.5	7.7	0.0	7.7	0.0
なし	146	36.3	24.0	9.6	6.8	4.8	0.7	1.4

表16 腹痛とlife event (1学期調査分)

life event	人数	腹痛		
		頻回	ときに	なし
~ 3	477	33.8	38.8	27.5
4 ~	57	38.6	33.3	28.1
計	534	34.3	38.2	27.5

※life event : 1.5±1.5

表17 腹痛とlife event (2学期調査分)

life event	人数	腹痛		
		頻回	ときに	なし
~ 3	430	34.4	38.8	26.7
4 ~	65	36.9	32.3	30.8
計	495	34.7	38.0	27.3

※life event : 1.6±1.7

表18 頻回腹痛群で有意に多く認められたlife event (1学期のみ)

	父親が家庭にいる 時間が多くなった	仲のよい友人が いなくなった	部活を新しく 始めた
腹痛頻回	12.0	4.9	21.9
ときに	7.4	0.5	11.3
なし	3.4	2.7	15.6



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約：中学生 534 人を対象として、反復性腹痛・過敏性腸症候群様消化器症状と心配事、および、life event との関連性を検討した。反復性腹痛の頻度は学年による特徴はみられなかったが、腹痛以外の過敏性腸症候群様症状は 3 年生に多い傾向が認められた。しかし、1 学期と 2 学期で、腹痛・過敏性腸症候群様症状とも、どの学年においても頻度に違いがみられなかった。このことより、受験のストレスは、少なくとも 12 月までは、中学生の消化器心身症状にあまり影響を与えない可能性が推測された。反復性腹痛で頻回欠席・受診をする小児では、自分の健康状態に対する心配が大きく、腹痛自体よりも、そうした心気の状態が日常生活に影響を与えている可能性が考えられた。経験した life event 数の多少と消化器心身症状の頻度の間には一定の関連性は認められなかった。